

北海道浮魚ニュース

平成 19 (2007) 年度 3 号 (通巻 No.236)

2007 年 6 月 5 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 23 日から 5 月 31 日までの期間、松前沖から秋田県男鹿半島沖にかけての海域で、函館水産試験場調査船金星丸 (イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

5 月末現在のスルメイカ日本海北上群の分布密度は昨年を下回ったが、松前沖での分布密度は昨年より高かった。魚体サイズは昨年より小型で、海域によるサイズの差は小さい。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 6 点の表面水温は 11.8 ~ 15.8 (昨年 11.8 ~ 14.8) の範囲にあり、各地点の水温は、青森県久六島西沖の St.6 で昨年と同じ、津軽半島西沖の St.1 で昨年来を 0.8 下回ったほかは、昨年来を 0.5 ~ 2.0 上回りました。水深 50 m の水温は 6.1 ~ 12.8 (昨年 4.3 ~ 10.6) の範囲にあり、各地点の水温は、松前沖の St.21 で昨年来を下回ったほかは昨年来を 0.9 ~ 2.7 上回りました。全体的に、昨年同時期に比べ水温は高めでした。

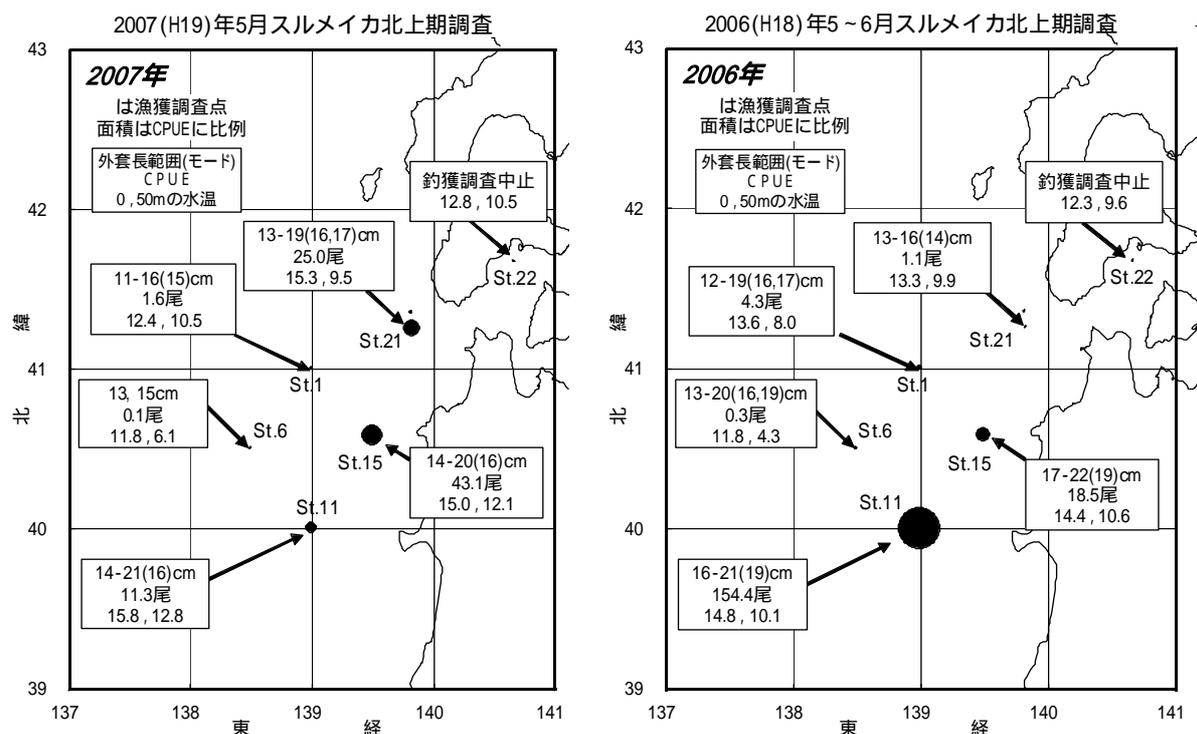


図1 スルメイカ漁獲調査結果 2006年との比較

2. 分布密度 (図1、図2)

松前沖 St.21 以南 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0.1 ~ 43.1 の範囲 (昨年 0.3 ~ 154.4) でした。平均 CPUE は 16.2 (昨年 35.7) と昨年を大きく下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。魚群の分布密度は久六島近海の St.15 (CPUE 43.1、昨年 18.5) 及び松前沖の St.21 (CPUE 25.0、昨年 1.1) で昨年より高い値を示しました。

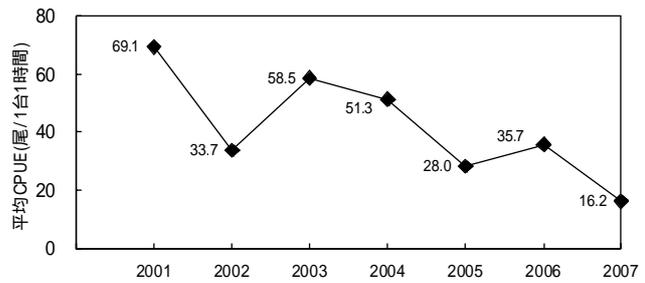


図2 平均CPUEの経年変化(2001年以降)

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長(胴長)の範囲は 11 ~ 21cm (昨年 12 ~ 22cm)、モード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は 16cm (昨年 19cm) で、いずれも全体的に昨年より小型でした(図1、図3)。各調査点ごとのモードの範囲は 15 ~ 17 cm (昨年 14 ~ 19cm) で、海域によるサイズの差はあまり見られませんでした(図1)。

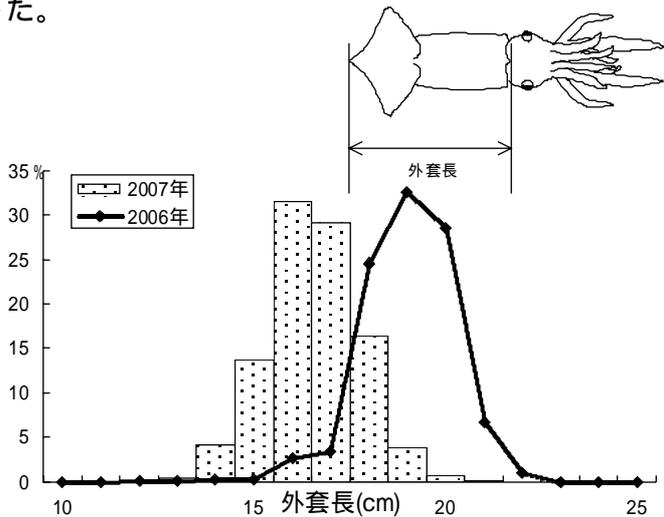


図3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流 (図4)

調査期間中、秋田県男鹿半島沖 St.11 と久六島近海 St.15 で合計 1,185 尾のスルメイカ標識放流を行いました。標識のついたイカを発見されましたら、函館水産試験場調査研究部までご一報下さい。その際、以下のデータについて、分かる範囲で構いませんのでご連絡願います。

- タグの形状と番号
- 再捕日時
- 再捕場所(分かれば緯度経度)
- 再捕の方法(釣り、定置網、等)
- 再捕個体の外套長
- 再捕個体の体重
- 再捕個体の性別

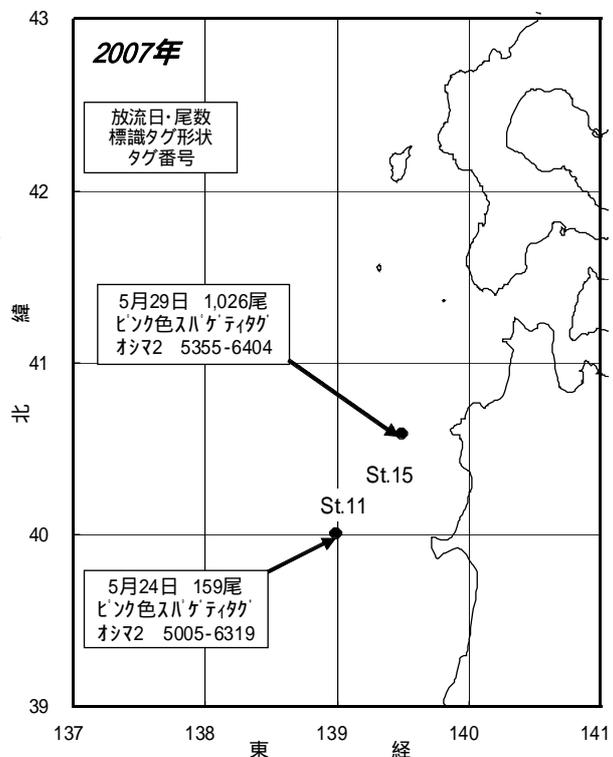


図4 2007年スルメイカ標識放流地点

(文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)